



下部神社拝殿―奈良市で



下部神社（奈良市）



近鉄榛原駅から額井岳を右手に見ながら香酔峠

を上り切ると、下部神社が鎮座される吐山地区です。

創建は不詳ですが、「下部神社略記」によると、この地の豪族星川氏が都祁国造の祖である神八井耳命を氏神としたのが始まりだそうです。

（住所）奈良市都祁吐山町39557
（祭神）神八井耳命・天之児屋根命
（交通）近鉄榛原駅から奈良交通バ

ス「吐山」下車徒歩約5分
（拝観）自由
（駐車場）あり（電話）なし

神社は、明治40（1907）年に現在地にあった春日神社と合祀されるまで、現在地の南東約850㍎の字「オリイ（オリエ）」にありました。旧社殿の裏山の尾根には「イワグロ」と呼ばれる大きな岩があります。春日神社は弘治2（1556）年に吐山日向守光政が祭った社です。合祀の際に、式内社である下部神社と改称しました。

秋の例大祭では、400年ほど前から伝えられてきた「吐山太鼓踊り」が奉納されます。笠間川最上流の高地にある吐山は水不足が深刻で、日照りの日神社は弘治2（1556）年に吐山日向守光政が祭った社です。合祀の際に、式内社である下部神社と改称しました。

雨に感謝の吐山太鼓踊り

成され、華やかで勇壮な踊りが守られています。（奈良まほろばソムリエの会員 小西和子）